



1. 街に開かれた「音楽のみち」
 2. 木漏れ日あふれる森の中の「TCMホール」
 3. 「音をかたち」にした音響空間
 4. 12m×32mの凹凸を強調したスギ板本実壁

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス 計画概要

- 建築主 学東京音楽大学
 - 設計者 ㈲日建設計、戸田建設㈱
 - 施工者 戸田建設㈱
 - 所在地 東京都目黒区上目黒1-9-1
 - 竣工日 2019年1月31日
- 敷地面積 8,538m²
 - 建築面積 5,543m²
 - 延床面積 17,720m²
- 階数 地上3階、地下1階、塔屋1階
 - 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは
 左記のQRコードから
 Webページに
 アクセスしてご覧ください。

ミューレーションを行った結果を反映させたもので、BIMの活用による協調的なディテール設計のあり方を示した範例となりえるであろう。外装や、一二層×三二層のエントランス大壁面などにおいては、凹凸のあるスギ板本実型枠による打ち放しコンクリートが用いられ、陰影の深い表情を醸し出している。階段部の施工をはじめとして、今日においては類い稀な技術技能を持った型枠大工職らによる、芸術品ともいえるべき、精確稠密なコンクリート打設が随所に見られる。単に「極低収

縮コンクリート」という材料を用いることにとどめず、極めて優れた技能技術者を見出し、かつその力を引き出した現場管理者の業績は賞賛に値する。このように、東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスは、音楽によつてまちと共に発展していき、音楽文化の拠点として社会と共鳴させるという建築主である大学のエトスが設計者、施工者にも共有され、ディテールにまでおよんでいるという点においても高く評価されるべき作品である。

日建連表彰 2020



第61回 BCS賞

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス

選定理由

【選考委員】
 野城智也・赤松佳珠子・菅 順二

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスは、同大学が奉ずる「まちと協奏するみどりの中の音楽大学」という理念のもとに、中目黒と代官山の間の段丘ともいえるべき大きな地盤高差のある斜面地に建築が埋め込まれたかのように展開している。キャンパスの真ん中を貫く「音楽のみち」は、地域に公開されて、中目黒と代官山を繋ぐ貴重な、アメニティの高い公共的な通路となっている。「音楽のみち」に沿って地域の方々も利用できるレストラ

ン、広場などが配されているばかりでなく、地域の高齢者や乳母車の利用者の負担軽減のため、建物内のエレベーターも利用開放されているなど、地域に溶け込んだ運営がなされている。また、敷地境界には、従前はうっ

そうとしていた鎌倉街道を「みどりの鎌倉街道」として再整備し、こちらも豊かな公共空間を提供している。目黒区と協同したエリアマネジメントがなされ成果を挙げていると思われる。

キャンパスは、約八〇のレッスン室、約六〇の練習室、二二の教室、オーケストラルーム、レコーディングスタジオ、音楽ホールなどで構成されており、学生が思う存分、学び練習すること、また、本物に触れることを主眼に、施設が形成されている。その設計密度は高く、ディテールに至るまで様々な工夫が見られる。例えば、レッスン室は、限られた種類の内装パネルの組み合わせや配置を工夫することで、それぞれの楽器の音響特性や、演習指導方法に対応した環境を提供している。これは設計事務所・建設会社がBIMモデルを共有し、そのデジタルデータをもとに、一つひとつ音響シ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2020年で61回を数えました。

《日建連表彰 2020 第61回BCS賞受賞作品》 追手門学院大学 Academic Ark / オーテピア 高知新図書館等複合施設 / 関西外国語大学 御殿山キャンパス・グローバルタウン / 資生堂グローバルイノベーションセンター S/PARK / 上越市立水族博物館 うみがたり / 水天宮御造替 / 須賀川市民交流センターtette / 東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス / 豊中市立文化芸術センター / とら 赤坂店 / NICCA / イノベーションセンター / 日本橋二丁目地区プロジェクト / パシタウン黒部 第1街区 / 日向市庁舎 / 福井県年輪博物館